

学校名	海陽町立穴喰小学校
授業者	藤崎 知幸

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

体験！発見！穴小環境プロジェクト

1-2. 学年

第5学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

専門家の講義を聞き、サンゴの生態や保全の必要性について理解する。サンゴ移植活動では、メッセージと共に稚サンゴを水中ボンドで自然石に固定して移植する。活動後は海洋プラスチックゴミや地球温暖化についての出前学習をとおして、環境問題の原因や課題について理解する。







1-5. 単元設定の理由・ねらい


サンゴ移植などの地域の環境保全活動への参加を通して、海の環境保全に主体的に関わろうとする意欲を高める。また、海洋プラスチックや地峡温暖化などの環境問題と関連づけることで、当事者として何ができるかを考えさせる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- (1) 環境問題は、加害者と被害者が限定されない地球規模の問題であることを理解する。
- (2) 体験したことや資料などを根拠として、自分なりの課題解決の方法を考える。
- (3) 体験に積極的に参加し、学んだことを多くの人に情報発信する。

単元の展開（全14時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>【宍喰の海の現状の講話】</p> 	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宍喰の海の状況が、地球温暖化の影響により深刻になっている状況にも関わらず、なぜ竹ヶ島のサンゴは保全されているかを問いかける。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンゴの生態を更に詳しく調べようとしている。 <p>【外部連携】</p> <p>岩瀬 文人 氏（四国海と生き物研究会）</p>
2	<p>【自然再生活動(サンゴの移植体験)】</p> <p>(1)自然保護にかかわる地域の方々の願いを知る (2)船上でサンゴの移植活動に取り組む (3)活動を振り返り、海の環境問題に興味を持つ</p> 	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全活動の意義を理解させる。 ・船上で安全に作業できるように注意を払う。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と積極的に関わり、サンゴ移植活動に取り組んでいる。 <p>【外部連携】</p> <p>岩瀬文人 氏（四国海と生き物研究会） 海洋自然博物館マリンジヤム 海陽町役場産業振興課 宍喰漁業協同組合</p>
2	<p>【海洋プラスチックごみ】</p> 	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真から「わかったこと・気づいたこと・思ったこと」を箇条書きさせることで情報を蓄積させる。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定の場で自分の意見を明確にしている。 ・他の意見にも耳を傾け、そのよさを理解している。 <p>【外部連携】</p> <p>菅田 斉 氏(阿南 YMCA)</p>
2	<p>【地球温暖化とサンゴ】</p> 	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクル図を活用して、自然が循環していることに気づかせる。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクル図の言葉を使って自分の意見を発表している。 <p>【外部連携】</p> <p>石井 友規 氏(地球写真家)</p>

<p>3</p>	<p>【南海トラフ巨大地震と津波】</p> <p>(1)南海トラフ巨大地震発生のメカニズムについて知る。</p> <p>(2)地震・津波から命を守るためにできることを考える。</p> 	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がどのような被害をうけるのか知り，命を守るためにどのような行動をするべきか考えさせる。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や外部講とのかかわりを通して防災に携わる人の思いに気付いたり，避難の方法について新たな視点を見いだしたりしている <p>【外部連携】</p> <p>井若 和久 氏(徳島大学)</p>
<p>4</p>	<p>【豊かな自然 海の生き物の学習のまとめ】</p> <p>穴喰の海の生き物について調べたことを絵や文章でまとめて情報発信する。</p>	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすくまとめられるよう助言する。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴喰の海の生き物について調べたことを，ICTを活用して写真や文章でまとめている。

2. 学習活動の実際



2-1. 単元における位置づけ

単元 1 4 時間中の 2, 3 時間目

2-2. 本時の目標

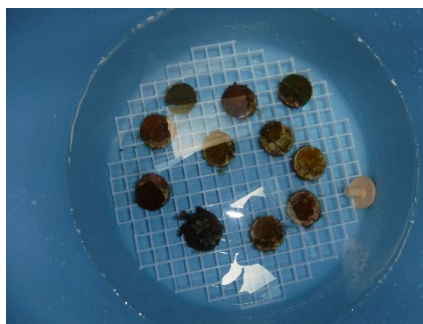
地球温暖化が与える海やサンゴへの影響やサンゴの生態を理解し、友達と協力しながらサンゴの移植活動に取り組むことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 めあてを確認する</p> <p>2 サンゴの観察をする</p>  <p>3 サンゴの移植活動に参加する</p>  <p>4 振り返りをする</p>	<p>○保全活動に参加している方々の説明から、保全活動の意味に気づかせる。</p> <p>○サンゴの生息環境に興味を持たせる。</p> <p>○サンゴの生態や環境問題等について、海洋自然博物館マリンジヤムの職員に質問したり、説明用パネルで確認したりして理解を深める。 知識・理解(発言・メモ)</p> <p>○活動の留意点を聞き、安全に活動できるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ライフジャケットを着用させ、安全に作業できるようにさせる。・稚サンゴを傷つけないように、水中で素早く作業させる。 <p>○活動して感じたことを発表し合い、海の環境汚染や地球温暖化に関心を持たせる。 主体的に学習に取り組む態度(発言)</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・海陽町竹ヶ島の海は、エダミドリイシサンゴが生息できる環境であることや、地球温暖化の影響を受けてサンゴが減少しているという状況であることを知ることができた。
- ・地域の多くの人々がエダミドリイシサンゴ保全活動に取り組んでいることも知り、自分たちは何ができるかを考えるようになってきた。
- ・竹ヶ島の海環境、サンゴの生態、保全活動に取り組むことやエダミドリイシサンゴを移植する体験を通して、海陽町の宝の一つである豊かな海を自分たちで守っていくという当事者意識を高めることができた。



4. 今後の課題

- ・地球温暖化と海の変化やそれに伴って起こる生き物の暮らしの変化など、環境問題について調べることを継続する。
- ・環境保全のために自分たちにできることを他教科と連携しながら考え、取り組んでいく態度を育成していく。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。